生き物とかかわる「おもしろさ」

2007年7月28日・29日に開催された、2007年度企画展示関連シンポジウム「東アジアにおける生き物と人―これからの関係を探る―」第2部「生き物とかかわるおもしろさ」交流会（29日　於：琵琶湖博物館ホール）のもようをお伝えします。

［出席者］
㈳日本動物園水族館協会 総裁 秋篠宮 文仁
草津市立笠縫東小学校5年生
伯母Q五郎～伯母川研究こどもエコクラブ～
滋賀県立琵琶湖博物館 館長 川那部 浩哉
司会：松田 征也

▶琵琶湖岸での魚捕りの前に、説明を聞く子どもたち
◀たも網を使っての魚捕り

捕ったもの、飼ったもの

司会　今日の朝は、湖岸で魚捕りをしました。その皆さんと生き物や川についてこれから話をしたいと思います。秋篠宮殿下と川那部館長にも加わっていただきます。よろしくお願いします。初めて川に入ったときの感想は？

● 思ったより冷たかった。

● 靴に泥がにゅるにゅる入ってきて、気持ち悪かった。

● 川は危ないと思ってたけれど、魚がたくさんいて楽しかった。

● 浅いところ深いところがあって、少し怖かった。

● 初めは何も捕れなんだけれど、しばらくするとスジエビが捕れて、嬉しかった。

● 岸からは魚の姿が見えなかったけれど、入るとカワムツが多く捕れました。

司会　魚を捕った時の写真では、みんなすごい笑顔でしたよ。アユ・オイカワ・オオクチバス・シマドジョウ・ドンコ・ナマズ・フナ・メダカなどを、捕ったり見たりしたと皆さんに聞きましたが、殿下は子どもの頃どんな魚を捕っておられたのでしょうか。

秋篠宮　川や池でコイやフナなどですね。赤坂御苑の池には、アオウオ・ソウギョ・コクレン・ハクレンなどもいて、1mぐらいのものも捕りました。川では、アブラハヤやナマズ、ホトケドジョウなんかも。今日たくさん捕れたブルーギルやオオクチバスも、釣ったことがあります。

司会　1mとは大きいですね。殿下は、生き物の飼育もいろいろなさったようですが。

秋篠宮　捕ったものはだいたい飼ったことがあります。観賞魚も好きで、ライギョや南米のシクリッドの仲間。それにナマズの類はずいぶん飼ったものです。

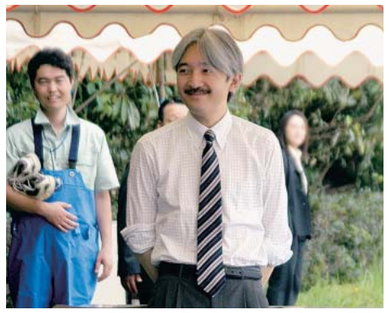
司会　館長にも聞いてみましょう。

川那部　それが、まったくないんです。飼っていたのはイヌとネコ、ニワトリは卵を食べるため。あとは、カナリアとキンギョとスズムシぐらいでしょう。昆虫採集もほとんどしなかったし…。あっ、一つだけ捕ったものがある、セタシジミです（笑）。柳が崎で泳いで足を下ろすと、いっぱい当たる。拾って持って帰りました。

　ただ、私と一緒に住んでいた動物はいっぱいいます。ネズミやアオダイショウやヒキガエルやクモなどもね。家の中にも外にも生き物がたくさんいて、特に鳥の声や虫の音はおおいに楽しみました。

司会　魚を捕ったことはないのですか。

川那部　ものすごく不器用で、22歳になって研究のために刺網で魚を捕ったのが、成功した最初です（笑）。今日の皆さんのお話は、だから、たいへん羨ましい。



▲捕れた魚の解説を聞く子どもたち（上）。秋篠宮殿下もその様子をご覧になっている（上・下）

数や種類が多いのは楽しい

司会　先ほど湖岸では、どんなものが捕れましたか。ブルーギルやオオクチバスはたくさんいましたが、その他には？

● ウシガエルのオタマジャクシ。

● アメリカザリガニ。

● カダヤシ。

司会　うーん、何か気づきませんか。

● 外来種ばっかり。

司会　そうですね。みんなが調査してきた伯母川や葉山川には在来種がまだ多いですが、湖岸は大半が外来種になってしまって、残念です。川での魚捕りで、いちばん楽しかったことは？

● たくさんの種類を捕ったことです。ヨシノボリ・カエル・ザリガニ。

● それに、カワムツとかオイカワとか。

● 活動を始めて2年目ぐらいに、上流でカジカやムギツクを捕りました。

● 山も近く木も多い上流は、水もきれいで、サワガニがいました。下流ではカムルチーを見ました。

秋篠宮　カメを捕った人はおられますか。

● 友人がスッポンを捕りました。

秋篠宮　それ以外のカメは？外来のカメも多いのではないでしょうか。

▲葉山川、伯母川での環境学習について発表する2つのグループの子どもたち

● 家族と旅行に行って、首に赤い線や点のあるカメを見たことがあります。

司会　外来種のミシシッピアカミミガメでしょう。川にはイシガメ、池にはクサガメが、以前は多かったのですが、最近はこれが増えています。

生物多様性と人間との関係

司会　いろんな場所にいろんな種類がいるのは楽しいと話が出ましたが、22歳まで魚を捕ったことがないという館長の意見は？

川那部　アユがいると、他種の魚が困ったり喜んだりすることがあるんです。オイカワは、流れの比較的速い瀬の中央で石の上の藻を食うのですが、アユがやってきて藻を活発に食うと、オイカワは淵など淀んだ場所に移って虫を食う。そこにもともといたカワムツはオイカワと逆に瀬に移ってしまう。棲み分け・食い分けと呼んでいますが、こういう現象もあります。

　今日、久しぶりに捕ってみたところでは、種の数も個体数も少ないですね。いろんな棲み場に、それぞれに違った多くの種がいる。魚も虫もエビなども…。それがほんとうはいちばん楽しいことです。

司会　私は大津の生まれで、子どもの時はいろんな魚を釣ったりしていました。ここにいらっしゃる方の中にも、湖岸などで以前いろいろな魚をたくさん捕った経験のある人が、きっとおられることでしょう。

　それはそうと、生き物とかかわる別の楽しみについて、殿下、何かご紹介いただけませんか。

秋篠宮　魚の名まえには、日本各地で違うものがたくさんあって、メダカなどは5000以上の呼び名があります。それを調べるだけでもとても楽しいことだと思います。

　また、漁具もいろいろありますね。琵琶湖でもそうでしょうが、タイ国などでも、例えば「筌※」も、捕る魚種によっていろいろあります。そういう漁具を見るのも楽しいです。

　メコン河には、長さ3m、重さ250kgから300kgにもなる、巨大なナマズがいます。河のカミと呼ばれていますが、実はカミさまのお使いです。この魚を捕獲するための行事があって、伝統的な儀礼のほかに、観光のシンボル的な祭も開かれます。資源としての保護活動も行われています。このように一つの魚についても、接する人の立場や条件によって、さまざまな側面を持つ、そういう面白さもあります。

司会　このへんでいうボテ（タナゴ類）は、今でこそ珍しがられていますが、20年ほど前までは、モロコ釣りの邪魔もので、「なんや、またボテか」と、ぽいと捨てられていました。しかし、関東では釣りの本にも、タナゴ釣りが特別に載るほど珍重されていました。場所により時期によって、同じ生き物に対する接し方も、いろいろ違ってくるのですね。

生き物を増やすには？

司会　生き物の種類や数を増やすためにはどうすれば良いか、意見を出して下さい。

● 絶滅危惧種を繁殖・放流して、どんどん増やしていく。

● ゴミのポイ捨てをやめるなど、環境を良くしたらいいと思います。

● 生き物が棲みやすいようにしたら良いと思う。コンクリートでは草も生えないので、自然のままの状態にしてやったら…。

司会　三面コンクリート水路だと二枚貝が少なくなって、それに産卵するタナゴも減ります。

● 植物にも、セイヨウタンポポなど外来種がいます。キャッチ＝アンド＝リリースなどはしないで、在来種を守ってほしいと思います。

● ポイ捨てをしないとか、キャッチ＝アンド＝リリースをしないとか、テレビでもっと宣伝して、それを見て、みんなが環境について考えてほしい。

● みんなに、自然の大切さを知ってもらうことが大事です。

● 地域の人と一緒に、環境についての勉強とか活動とかをしたら良いと思います。

司会　輪を広げていくのが大事ですね。皆さんは、大人になっても魚捕りを続けたいということですが、先ず、魚を見る・捕る・飼う・食べることから始めるのがいちばんだと、今日の話を聞いていて改めて強く感じました。

※竹で編んだ円筒形のかごに返しをつけたわな式の漁具。

● 出席した子どもたちの名前は、統一して無名としました。